

## 施工される前に

- この施工説明書をよく読み、正しく施工してください。
- 便器の使用水圧範囲は、最低必要水圧：0.07MPa（流動時）から  
最高使用水圧：0.75MPa（静水圧）です。給水圧が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2~0.3MPa程度に減圧してください。
- 温水洗浄便座は機種により、最低必要水圧が異なる場合がありますので、使用条件をご確認ください。
- 排水経路が適切であること（つまりの有無・配管設計・通気設計・配管老朽化での配管損失なし）を事前にご確認ください。  
※排水管の詰まりや通気が不足している場合、排水能力低下、騒音、封水切れ、他器具への影響などが生じるおそれがあります。
- ※排水管接続の際は管を屈折させたり、曲がりを多く使用することや小曲がり継手の使用は洗浄に影響を及ぼすため避けてください。
- 便器の洗浄水量は、自治体により行政上の立場から設置条件が決められている場合があります。その場合は所轄官庁の指示に従って設置してください。
- 温水洗浄便座の施工は、温水洗浄便座の施工説明書に従って施工してください。

## 施工された後に

- 不具合確認のため、必ず試運転を行ってください。
- 本施工説明書と取扱説明書は、お客様にお渡しください。お渡しするときは、使用方法をご説明ください。  
また、取扱説明書の裏表紙の「保証書」に必要事項を記載してください。

## 安全のために守ってください

- ここでは施工に際して守って頂かないと、人身事故や家財の損害に結び付く注意事項を挙げています。  
施工前にこの項目をよくお読みいただき、正しく施工してください。

### 表示と意味

- △警告** …… 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。  
**△注意** …… 障害や物的損害が発生する可能性がある内容です。  
 …… してはいけない禁止の内容です。  
 …… 必ず実行していただく強制の内容です。

### △警告

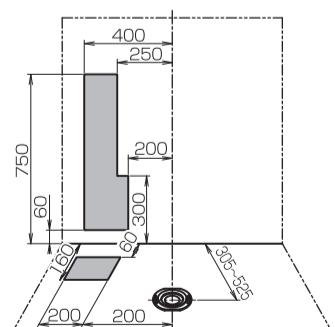
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしない。  
※故障や感電、火災を起こすおそれがあります。
- 水がかかったり、陶器の表面に結露が生じるような浴室などでは、絶対に使用しない。  
※漏電による火災や感電、故障の原因になります。
- ! 電源は交流100Vを使用し、コンセントにガタつきの無いことを確認のうえ、根元まで十分に差込む。  
※交流200Vや直流電源を使用しますと、火災や故障の原因になります。
- 電源コードや無理な力（曲げ・折れ・ねじれ）で傷つけたり、加工を絶対行わない。  
※火災や感電の原因になります。

### △注意

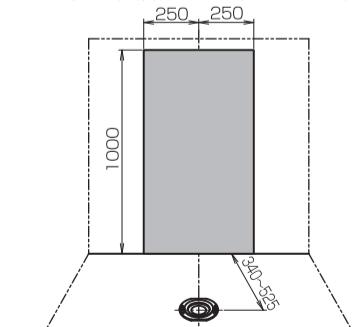
- 便器に強い力や衝撃を与えない。  
※ケガや漏水を起こすおそれがあります。
- ! 止水栓の調整と施工後の漏水点検を必ず行う。  
※漏水により、家財等を濡らすおそれがあります。
- ! お客様にお渡しする前までに、凍結が予想される場合は、水抜きする。  
※破損による漏水で、家財等を濡らすおそれがあります。
- お手入れに酸性・アルカリ性・塩素・フッ素系洗剤、ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコール等の溶剤や油類は使用しない。  
※洗剤によっては気化ガスが発生することにより、便座やタンク等の内部部品を傷め、止水不良・部品破壊・外部漏水などの不具合が発生し、家財に損害を与えるおそれがあります。また、樹脂製品が変色・溶解・破損等が発生するおそれがあります。

## 給水範囲（対応できる給水範囲は下記のようになります。）

### 壁給水の場合・床給水の場合



### 壁給水で便器後方に隠れる場合



標準のフレキホース（550mm）で施工できる範囲です。  
給水位置が 以外の場合は、延長ホース（別途手配）が必要です。  
延長ホース品番：P19345（延長300mm）  
止水栓は、既設の止水栓、またはタンクセットに同梱の止水栓を使用します。【注意1参照】

取替用止水栓（別途手配）が必要です。  
取替用止水栓品番：NC79FLFA

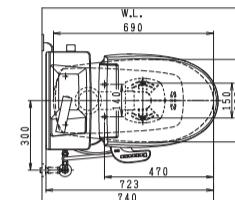
【注意1参照】 【注意2参照】

## 施工前の注意

- 便器→ロータンク→便座の順序で施工を行ってください。  
取替用止水栓（別途手配）を施工する場合は、便器施工前に取替用止水栓を施工してください。  
※取替用止水栓を使用する場合は施工方法が異なります。
  - 排水芯により、施工方法が異なります。
    - A 排水芯が305mm~435mmの場合
      - ・取替用止水栓を使う場合で排水芯が340mm~470mmの場合はこちらになります。
    - B 排水芯が436mm~525mmの場合
      - ・取替用止水栓を使う場合で排水芯が471mm~525mmの場合はこちらになります。
- ※排水芯Bの場合、アジャスター部は切断しません。

## 施工寸法図

A 排水芯が305~435



## 施工前に

施工型紙をミシン目にそって切抜き、a、bの2種類に分けてください。

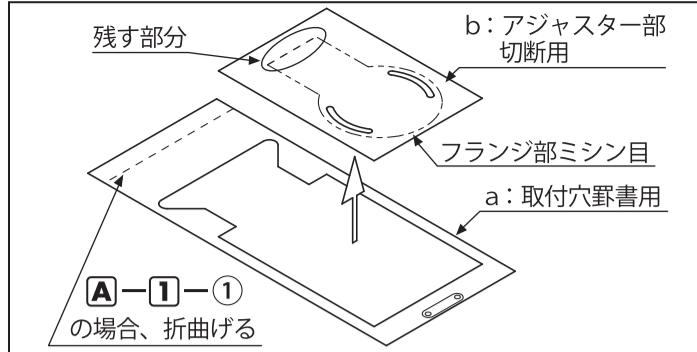
a: 取付穴野書用

b: アジャスター部切削用

●bはフランジ部分のミシン目も切ってください。

※「残す部分」は切らないでください。

●bはBの場合、使用しません。【注意3参照】



## 施工方法（A・Bの条件を選択して進んでください。）

A

排水芯が305mm～435mmの場合

※取替用止水栓を使う場合で排水芯が  
340mm～470mmの場合はこちらになります

### 1 アジャスター部と固定用部材の位置決め

①取替用止水栓を使用しない場合

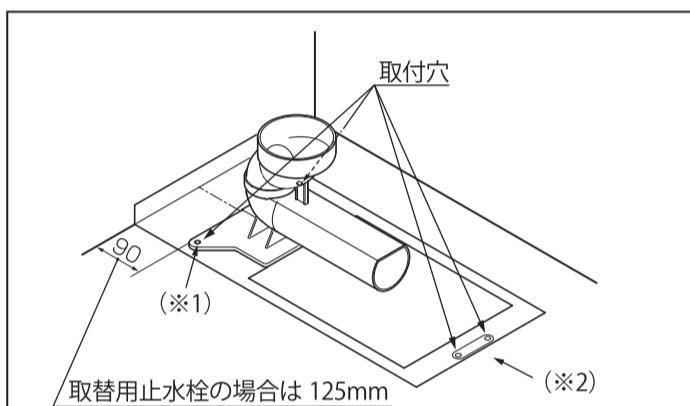
上図のとおり、aを折曲げた後、床に置いて壁の際に寄せます。「壁から90mm」の位置にアジャスター部の後端ラインを合わせて置いてください。

②取替用止水栓を使用する場合

aを床に置いて壁の際に寄せます。「壁から125mm」の位置にアジャスター部の後端ラインを合わせて置いてください。【注意4参照】

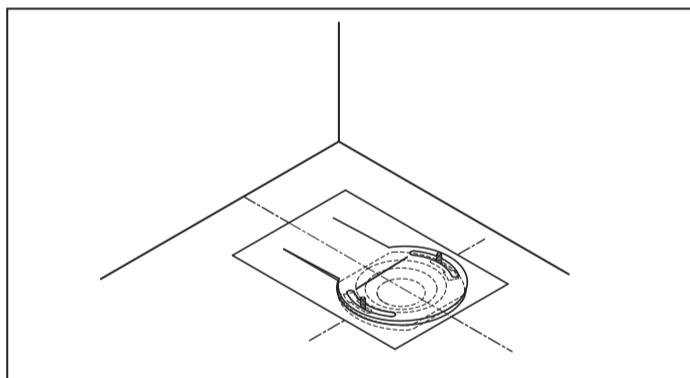
③アジャスター部取付穴（※1）と固定用部材取付穴（※2）を野書きします。

※野書き終わったら必ず施工型紙を外してください。



### 2 アジャスター部の切削

①bを既設フランジ中心に置きます。



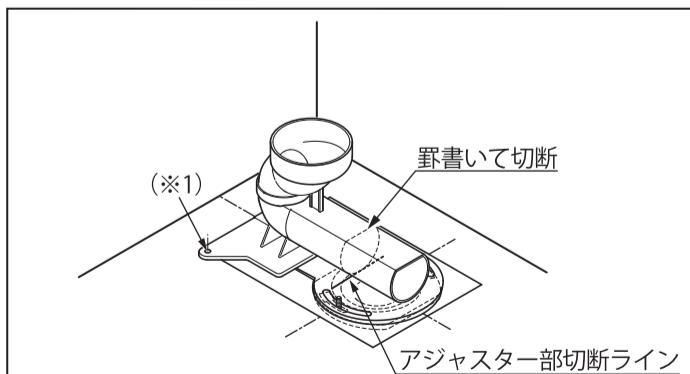
②アジャスター部を野書きしたアジャスター部取付穴（※1）に合わせて、ずれないように置きます。

③アジャスター部をアジャスター部切削ラインに合わせて野書きして切削します。【注意5参照】

※野書き終わったら必ず施工型紙を外してください。

※誤ってアジャスター部を短く切り過ぎた場合は、便器と固定用部材が離れ、便器の固定が不十分になるおそれがあります。【注意6参照】

また、アジャスター部を長く残し過ぎた場合は、便器が壁寄りに設置されるため、タンクと壁が干渉して施工ができないおそれがあります。



### 3 アジャスター部の接着

アジャスター部とフランジ部の差込み代に塩ビ用接着剤を塗布し、各部材を接着します。【注意7参照】

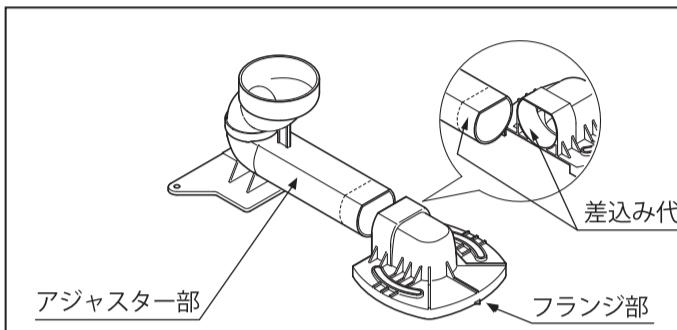
B

排水芯が436mm～525mmの場合

※取替用止水栓を使う場合で排水芯が  
471mm～525mmの場合はこちらになります

### 1 アジャスター部・フランジ部の接着

アジャスター部とフランジ部の差込み代に塩ビ用接着剤を塗布し、各部材を接着します。【注意6参照】【注意7参照】

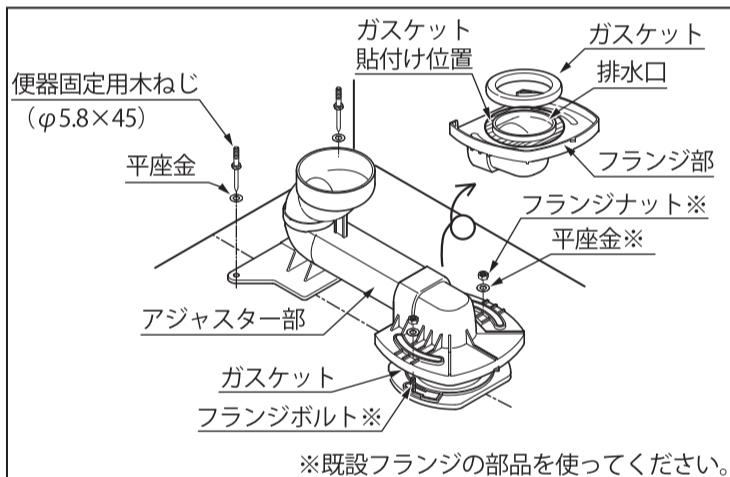


### 2 アジャスター部・フランジ部・固定用部材の固定

①フランジ部裏側の排水口にガスケットを貼付け、平座金を介してフランジナットでフランジ部を固定します。【注意8参照】

②便器固定用木ねじに平座金を介して、アジャスター部を固定します。

●床がタイルまたはコンクリートの場合、市販のPYプラグを使用してください。



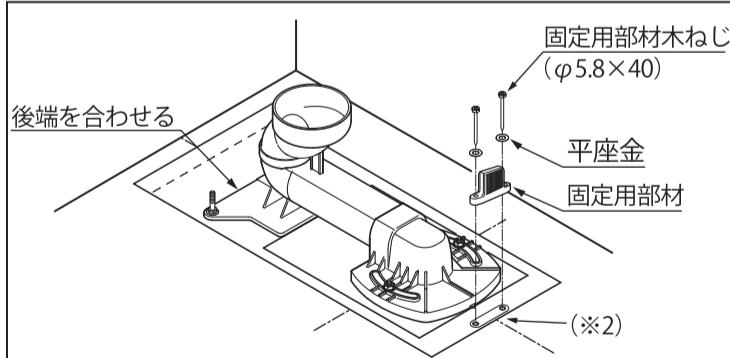
③切り抜いたaをアジャスター部の上から床に置き、アジャスター部の後端を合わせてください。

④固定用部材取付穴（※2）を野書きしてください。

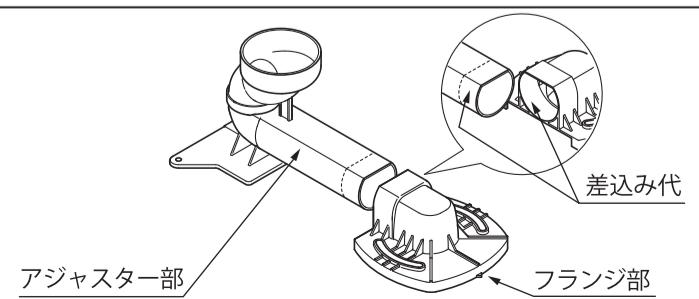
※野書き終わったら必ず施工型紙を外してください。

⑤野書きした固定用部材取付穴（※2）に固定用部材を合わせ、平座金を介して固定用部材木ねじで固定します。

●床がタイルまたはコンクリートの場合、市販のPYプラグを使用してください。

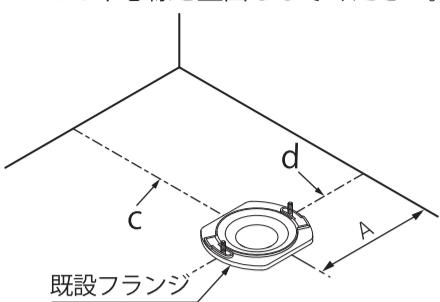


B 排水芯が436mm～525mmの場合は5便器の固定に進んでください。



## 注意3

●既設フランジの芯からAを採寸した後、c・dの中心線を墨出ししてください。



## 注意4

取替用止水栓を使用する場合と使用しない場合では、施工方法が異なりますのでご注意ください。

※施工方法を間違えると、便器が壁寄りに設置されるため、タンクと壁が干渉して施工できないおそれがあります。

## 注意5

●切断はアジャスター部に対して垂直に行ってください。

※斜めに切断すると、漏水、臭気発生の原因になります。

●切断後、アジャスター部にバリ等が残らないようにしてください。

※漏水するおそれがあります。

●切断後、アジャスター部とフランジ部を、再度差込んでアジャスター部の長さを確認してください。

また、このときアジャスター部に差込位置をマークし、接着時の参考にしてください。

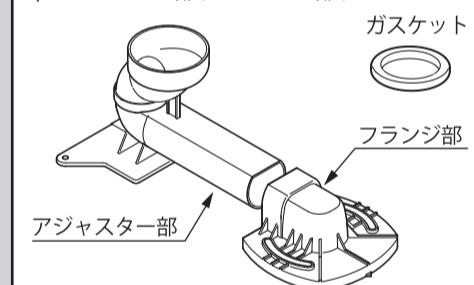
※差込みが不十分ですと便器の取付位置がずれ、施工不良の原因になります。

## 注意6

アジャスター部の切削・接着を間違えた場合には、以下の品番で手配してください。

品番 MESC87-01

(アジャスター部、フランジ部、ガスケット)



## 注意7

※アジャスター部とフランジ部の接着は確実に行ってください。

●フランジ部裏側から見てアジャスター部が奥までピッタリ差込まれていることを確認してください。

※接着が不十分ですと漏水、臭気発生の原因になります。

## 注意8

●ガスケットをフランジ部裏側にセットしてください。

※必ず、ガスケットが■部に納まるよう押広げながら、貼付けてください。

※ガスケットの貼付けが内側過ぎると、ガスケットが配管内に入り込み、洗浄不良の原因になります。

●アジャスター部を床へ固定する際には、床面の傾きや不陸にご注意ください。

※アジャスター部を逆勾配で設置すると、洗浄不良や詰まりの原因になります。

●フランジナットで固定の際は、締め過ぎないようにしてください。

※フランジが破損し漏水のおそれがあります。

**A**

## 排水芯が305mm~435mmの場合 一つづき

※取替用止水栓を使う場合で排水芯が340mm~470mmの場合はこちらになります。

### 4 アジャスター部・フランジ部・固定用部材の固定

①フランジ部裏側の排水口にガスケットを貼付け、平座金を介してフランジナットでフランジ部を固定します。

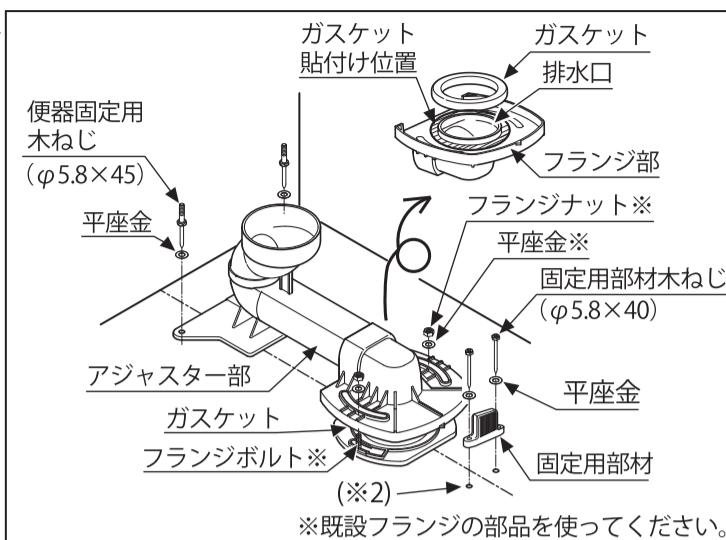
【注意8参照】

②便器固定用木ねじに平座金を介して、アジャスター部を固定します。

●床がタイルまたはコンクリートの場合、市販のPYプラグを使用してください。

③書きいた固定用部材取付穴(※2)に固定用部材を合わせ、平座金を介して固定用部材木ねじで固定します。

●床がタイルまたはコンクリートの場合、市販のPYプラグを使用してください。



### 5 便器の固定

①排水ゴムジョイントをアジャスター部にかぶせ、しっかりと奥まで押込みながら取付けます。

※隙間があると、洗浄不良や漏水の原因となります。

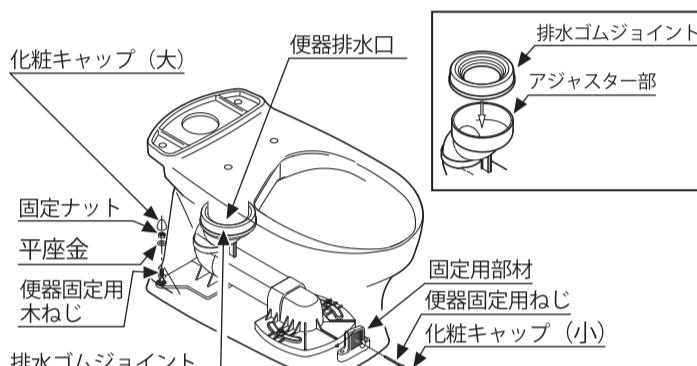
②便器固定用木ねじをガイドにして、排水ゴムジョイントに便器排水口を真上から差込みながら便器を置きます。

【注意9参照】

③便器固定用木ねじに平座金をナットで便器を固定します。固定後、化粧キャップ(大)を取り付けます。

④便器固定用ねじで便器の前面の穴から固定用部材に対して締込み、便器を固定します。固定後、化粧キャップ(小)を取り付けます。

※陶器に対してねじを締め過ぎると、陶器が割れることがあります。ガタつきの無いよう適度に締めてください。



### 6 ロータンクの取付け

①便器の密結穴の養生シールを剥がします。

②密結パッキンをタンク底の排水器具に取付けます。【注意10参照】

③密結ボルトをタンク取付穴に通し、便器にタンクを載せます。

●洗浄ハンドルが向かって右になるように設置します。

※正しく設置されないと、作動不具合や漏水の原因になります。

④便器の下から平パッキン、平座金、ナットで締付け、タンクを固定します。

●ナットは左右交互に均等に締付けていき、タンク底面が便器の3ヶ所の突起に当たるまで締めてください。

※片締めは破損や漏水の原因になります。

【注意9参照】



### 7 フレキホースの接続

※Oリングの養生キャップはタンクと接続するまで外さないでください。

①フレキホースのエルボ側をボールタップに差込みます。  
※差込む時にOリングを傷めないようにしてください。

②付属のクリップでボールタップとフレキホースを固定します。  
※クリップを各々のツバに確実に掛けてください。

③クリップにクリップカバーを取付けます。

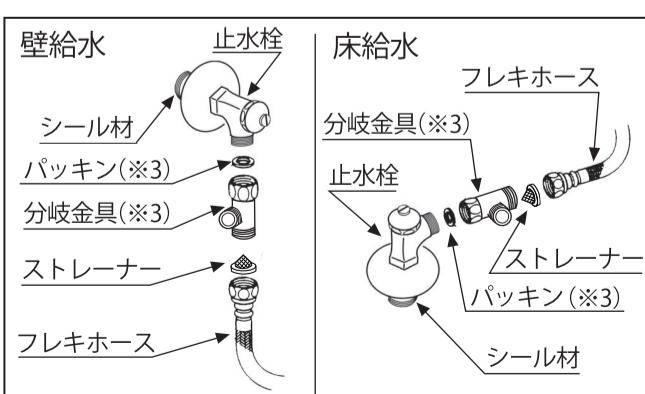
④温水洗浄便座の場合、止水栓の接続口にパッキンを介して分岐金具を接続します。

⑤ロータンクから取出したフレキホースをストレーナーを介して、止水栓または分岐金具に接続します。

※ストレーナーは必ず取付けてください。  
また、ストレーナーは凸部を止水栓側に向けてください。

※異物が入ると、作動不具合や故障の原因になります。

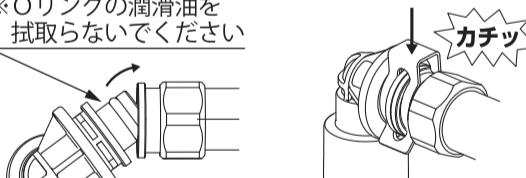
#### 温水洗浄便座の場合



※3. パッキンと分岐金具は温水洗浄便座の同梱部品です。

#### フレキホース接続時の注意

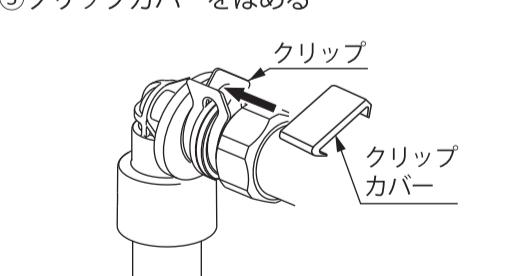
①斜めから差込む  
※Oリングの潤滑油を拭取らないでください



②クリップをはめる



③クリップカバーをはめる



### 注意8

●ガスケットをフランジ部裏側にセットしてください。

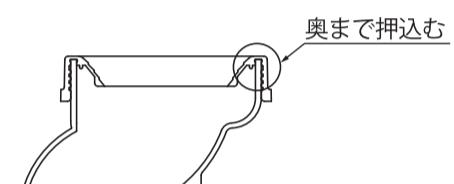
※必ず、ガスケットが $\square$ 部に納まるように押広げながら、貼付けてください。

※ガスケットの貼付けが内側過ぎると、ガスケットが配管内に入り込み、洗浄不良の原因になります。

●アジャスター部を床へ固定する際には、床面の傾きや不陸にご注意ください。  
※アジャスター部を逆勾配で設置すると、洗浄不良や詰まりの原因になります。

●フランジナットで固定の際は、締め過ぎないようにしてください。  
※フランジが破損し漏水のおそれがあります。

### 注意9



●便器の完全固定は、便器底面と床面のガタつきおよび施工芯を確認しながら行ってください。

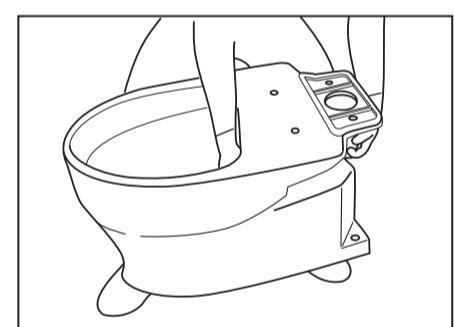
●陶器に対するねじは、締め過ぎないようにしてください。

※陶器が割れるおそれがあります。

### ■便器の持ち方

●便器は陶器製で約25kgです。

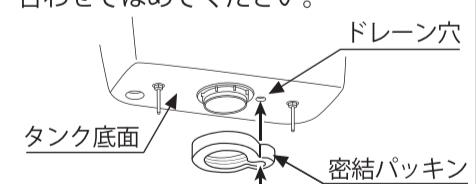
●下図のように持ってください。  
(滑止めのついた手袋を着用してください。)



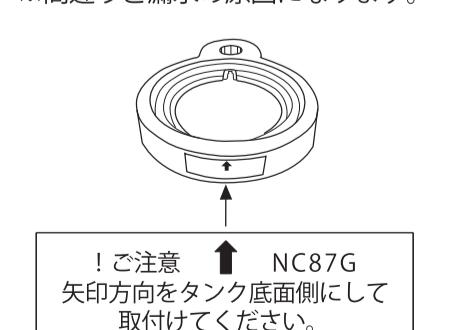
### 注意10

#### ■密結パッキン取付方向

●密結パッキンはタンクのドレン穴に合わせてはめてください。



●密結パッキンの向きに注意してください。  
※間違うと漏水の原因になります。



## 8 温水洗浄便座の取付け

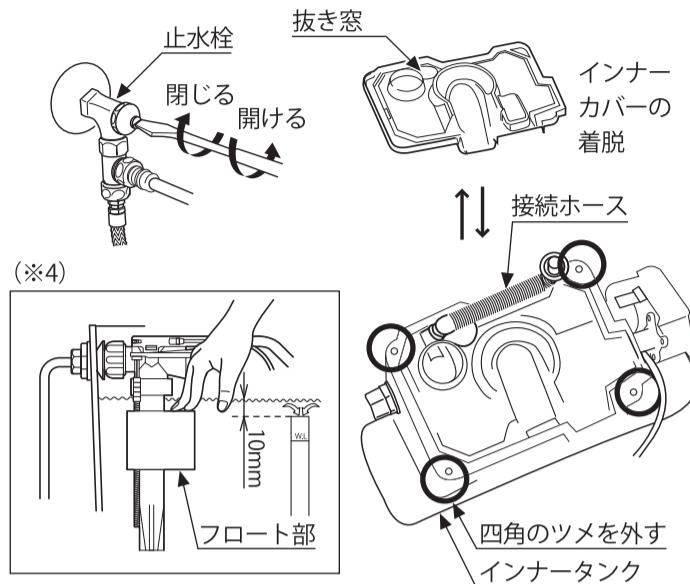
- 温水洗浄便座の施工説明書にそって便座を取付けてください。
- ※温水洗浄便座（高機能タイプ・JCS-601DRA）を取付ける場合は、ロータンクの洗浄ユニットコードと便座コードを確実に接続してください。（別添、「洗浄ユニットコードの接続方法」参照）
- 便座の前後左右の位置が便器上面と合っていることを確認してください。
- ※温水洗浄便座の場合、着座スイッチが利きにくくなります。
- ⑪「確認と点検」まで電源プラグをコンセントに差込まないでください。

【注意11参照】

## 9 ロータンクの調整

- 〔給水量の調整〕→〔止水位置の調整〕の順番で行ってください。
- 〔給水量の調整〕
  - ※ボールタップが故障して止水しない場合でも、タンクから水が溢れないようにするために、必ず給水量を調整してください。
  - ①止水栓を閉じます。
  - ②インナータンクカバーを外します。
    - インナータンクカバーの四角のツメを順番に外します。
  - ③手洗無し便器の場合は、止水栓を少し開きます。  
手洗付き便器の場合は、手洗吐水管への接続ホースをタンク内に向けて入れ、水が飛び出さないようにしてから止水栓を開きます。
  - ④フロート部を押下げたまま、水面がオーバーフロー管の上端より10mm以上上昇しない程度（※4）になるか確認してください。
  - ⑤③と④を繰り返し、（※4）になる様に止水栓の開きを調整してください。

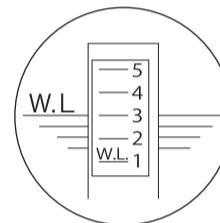
【注意12参照】



### ■〔止水位置の調整〕

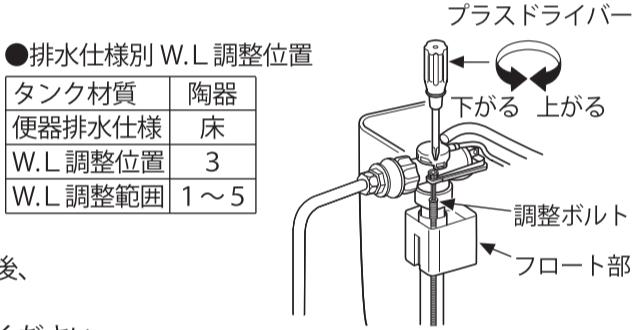
- 水圧条件などによりタンクの貯水量が変わることがあります。  
給水量の調整をした後、止水位置を調整してください。
- ①手洗付き便器の場合は、手洗吐水管への接続ホースをタンク内に入れ、水が飛び出さないようにします。
- ②タンクのハンドルを操作してタンク内の水を排出し、改めて水を溜めます。
- ③止水した時の水位（以下、W.L.とします。）をオーバーフロー管に表示されている「W.L.」ラインに合わせます。
  - 床排水便器：W.L.の3に調整（排水仕様別W.L.調整位置参照）
    - ・W.L.を上げる場合：ボールタップの調整ボルトを右方向に回します。
    - ・W.L.を下げる場合：ボールタップの調整ボルトを左方向に回します。
  - 調整ボルトはプラスドライバーを使って回すことができます。
- ④調整終了後、手洗無し便器の場合は、インナータンクカバーをインナータンクに取付けます。  
手洗付き便器の場合は、接続ホースをインナータンクカバーの抜き窓から取出し後、インナータンクに取付けます。  
※インナータンクカバーの四角を確実にインナータンクのツメに掛けて取付けてください。

### W.L.の調整（表示例）



### ●排水仕様別 W.L.調整位置

タンク材質	陶器
便器排水仕様	床
W.L.調整位置	3
W.L.調整範囲	1～5

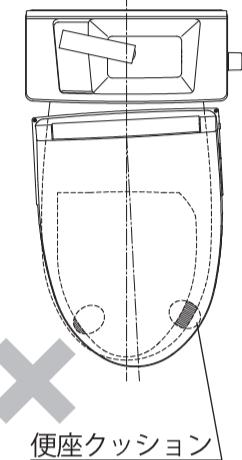


## 注意11

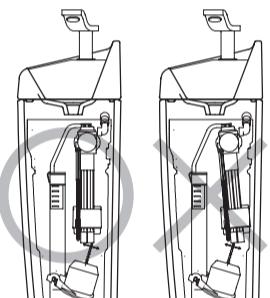
- 便座が自立することを確認してください。



- 便座を下げて、着座した際に便座クッションが便器上面に左右均等に接していることを確認してください。



## 注意12



## 注意13

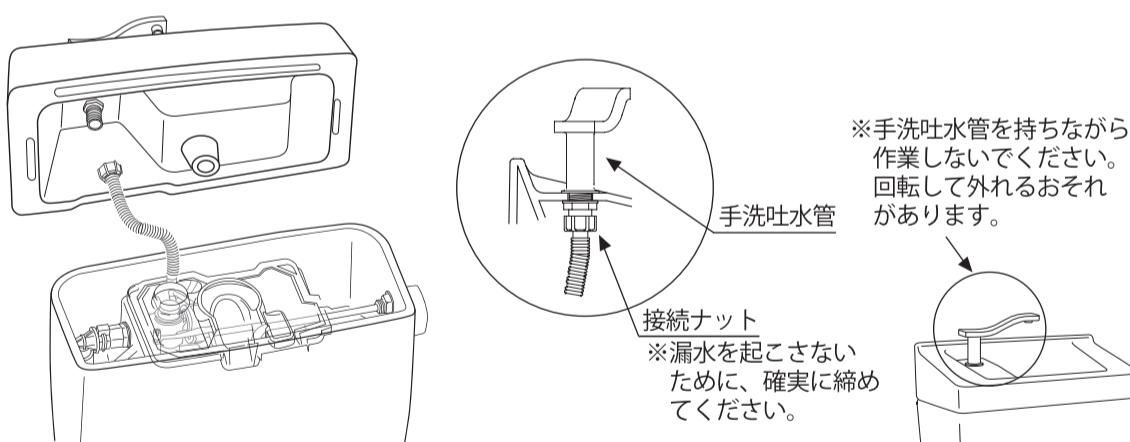
- 接続ホースは、強く引っ張らないでください。
- 調整後は元の状態に戻してください。

## 10 タンクふたの取付け

〔手洗付きの場合〕

- 接続ナットを手洗吐水管に接続し、ふたを載せます。

【注意13参照】



## 11 確認と点検

- 洗浄ハンドルを操作して数回洗浄させ、各接続部から漏水が無いことを確認してください。【注意14参照】
- フロート弁の開閉、ボールタップの給止水、洗浄ハンドルの動き等に不具合が無いことを確認してください。
- 便器鉢内にトイレットペーパーを約760mmの長さに切って軽く丸めたものを7個入れ、1回の洗浄ですべて排出するのを確認してください。  
※排出されない場合は、必ずロータンクの止水位置を再調整してください。  
調整方法は⑨を参照してください。
- 止水栓を開けても水の出が悪い場合は、ストレーナーを掃除してください。  
※止水栓を動かした場合は、必ず給水量の調整をしてください。
- 温水洗浄便座の点検を温水洗浄便座の施工説明書にそって行ってください。



## 注意14

- 排水接続部の漏水は、数回流さないと確認できない場合があります。